

産官学の フューチャープラン

▼ 294



藤本弘氏

公益財団法人の福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかIST）が運営する有機光エレクトロ

福岡県

第9回

ニクス実用化開発センター（通称GORA）アイキューブオペラ、福岡市西区）は、有機ELデバイスおよび有機光エレクトロニクスの実用化に向

あり、企業ニーズが高い領域は、やはり有機ELデバイスの作製である。「デバイス試作と評価、デバイス設計ソリューション、プロセス技術の開

ンター長である安達千波矢氏を強力にサポートする任に就いている。安達氏は、九州大学大学院で博士課程を修了、信州大学繊維学部助手、プリンストン大学研究員

の名を知られている。「熱活性化遅延蛍光（TADF）に基づく発光材料は、安達先生が開発したものであり、まさに世界をあっといわせ

を行ってきた（藤本氏）。有機光エレクトロニクス実用化開発センターの施設の概要は、敷地面積3680㎡に、延べ1741㎡の建屋があり、地上2階建て。約350㎡のクリーンルームを保有

万、局所1000くらい。この装置を用いて作成した有機ELデバイスは、多くの人に評価を受けている」（藤本氏）。ちなみに、最大基板サイズは200mm角、ロードロック室は13段力セツト、前処理室はUV/オゾン洗浄、加熱、窒素冷却で、有機成膜室は蒸発源が12式、スパッタ成膜室は12インチカソード一

「ここに来て、受託研究は非常に増えてきている。年間116件にも及ぶ。企業の悩みは『デバイス製作・評価のための装置やノウハウがなく、装置を入れてもなかなかうまく作れない』ということであり、そこをしっかりとサポートしていきたい。その技術は徹底的に磨いてきた。これは国内外でかなりの評価を受けている」（藤本氏）。最近では、安達研究室における最先端の成果をベースにした（株）Kyuuuxや（株）KOALA Techというベンチャー企業や、アイキューブオペラからのスピノフ企業である（株）アイヒーティンクやOPERA SOLUTIONS（株）が誕生しており、今後の展開が非常に注目されるところだ。（特別編集委員 泉谷渉）

有機光エレクトロニクス実用化開発センター

TADFベース有機EL研究

作製装置は蒸着源+CVD

けた産学官連携研究開発拠点として、2013年4月19日に開所した。この施設は、ふくおかISTおよび九州大学が福岡県と福岡市の人的・財政的支援を受けながら運営している。

発、産業化研究会などによる企業支援が主な事業概要である。とりわけ新規参入予定企業に対しては、非常に分かりやすいかたちでサポートし、これが好評を得ている。

九州大学未来化学創造センター主幹教授を歴任。そして10年に九州大学の最先端有機光エレクトロニクス研究センター長に就任した。有機エレクトロニクス分野で、世界最先端の研究を行う科学者の1人として国内外にそ

ことで、両者のエネルギー移動を容易にし、希少金属を使うことなく、ほぼ100%の効率で三重項状態のエネルギーを一重項経路で蛍光として取り出すことができる。このTADFをベースとして、私たちは様々な開発

機能をあわせ持つこと。さらには封止材料の評価もできる。また、デバイス特性の再現性に徹底的にこだわりの、独自の技術で蒸着源を最適化するなど信頼性に優れた評価ができるノウハウを蓄積している。クリーン度は1

式薄膜特性測定装置、マスクアライメント機構付き露光装置、接触式段差計測系、UV照射装置を備える。デバイス評価装置も充実しており、有機ELのほかにも半導体などの評価ができる優れものだ。

（特別編集委員 泉谷渉）

最大のミッションは、最先端の有機光エレクトロニクス研究を実用化に向けて橋渡しすること

タの副センター長兼研究室長を務める藤本弘氏である。同氏は九州大学客員准教授でもあり、セ

究室長を務める藤本弘氏である。同氏は九州大学客員准教授でもあり、セ

究室長を務める藤本弘氏である。同氏は九州大学客員准教授でもあり、セ

究室長を務める藤本弘氏である。同氏は九州大学客員准教授でもあり、セ

究室長を務める藤本弘氏である。同氏は九州大学客員准教授でもあり、セ

究室長を務める藤本弘氏である。同氏は九州大学客員准教授でもあり、セ

